

西暦 2009 年 1 月 1 日より 2013 年 12 月 31 日までの間に、子宮体がんに対し
妊孕性温存を目的とした初回治療を受けた方

若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究に対するご協力をお願い

このたび、下記の医学系研究を、日本産科婦人科学会倫理委員会臨床研究審査小委員会の承認
ならびに四国がんセンター院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご
協力をお願いいたします。この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありま
せん。

また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を四国がんセンター婦人科担当者までお申し出
下さいますようお願いいたします。

研究課題名

若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究

本研究の意義、目的、方法

子宮体がんの標準治療は手術による子宮摘出ですが、妊娠を強く望む若い女性で子宮内膜に
限局していると思われる高分化型類内膜癌、および子宮内膜異型増殖症（類内膜上皮内腫瘍）にお
いては、子宮を切除せず黄体ホルモンによる子宮温存治療も行われる場合があります。しかしなが
ら、本邦における若年子宮体がんの子宮（妊孕性）温存療法の実態についての詳細は不明
です。本研究では、久留米大学産婦人科を研究事務局として、日本産科婦人科学会の婦人科腫瘍登
録を行っている施設を対象に診療内容を調査し、治療の効果やその後の管理の方法、温存治療の本
来の目的である、その後の妊娠についてなど多くの情報を集めます。

全国規模のかつてない多数例の情報の集積により、治療適応の拡大の可能性を探ると同時に、安
易な温存治療がなされていないかどうかを検証し、治療の質の担保と安全な普及についての提言を
行うことを本研究の目的としています。研究の成果は学会発表や論文として公開されますし、参加
施設および日本産科婦人科学会のホームページでも見ることができます。

協力をお願いする内容

参加施設で若年子宮体がん妊孕性温存治療を受けられた患者さんの臨床データ（治療前情報・治
療の方法・その後の妊娠について・再発の有無、再発時の対応等）を集めます。特に新たに患者さ
んにご提供いただくものではありません。

本研究の実施期間

研究実施許可日から 2019 年 3 月 31 日

プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報すべてを削除し、第 3 者にはどなたのものか一切わ
からない形で参加施設から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることは
ありません。

研究実施機関

久留米大学産婦人科および全国の日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設

お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）よ
り、【情報の利用や他の研究機関への提供】の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措
置を行いますので、その場合は診療のために受診された施設へのご連絡をお願いいたします。

四国がんセンター婦人科 連絡先

791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160

独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 婦人科 大亀真一

TEL 089-999-1111 FAX 089-999-1100

【研究責任者】独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 婦人科 竹原 和宏

【研究代表者】久留米大学医学部 産婦人科 牛嶋 公生

本研究への協力を望まれない患者さんは、連絡先までお申し出下さい